



古一いつ子さん作 押し花

「母の歌」 くるくる回る糸車 背中で聞いた子守歌
 南無阿弥陀仏のお念仏は母の子守歌 ぶんぶん糸車
 しずかにまぶたを閉じると 遠くから南無阿弥陀仏とお念仏
 母の子守歌は南無阿弥陀仏と呼んでいる

田端 明さん



善親友 「ここで療養されている方々はハンセン病で療養されておられると思われる方?」「正解は×です」、10月8日～9日岡山県にある長島愛生園に教区研修会で訪れました。今回で3回目の訪問となりました。

薦の葉絡まる歴史館でハンセン病についてのお話を聞き
 長年差別と偏見、不当な扱いを強いられてきた方々の
 歴史と現状を学ばせて頂きました。当時環境の劣悪な中

発病され、隔離政策によって家族や故郷と別れ、想像を絶する困苦な生活。戦後、治療薬が出来、病気が回復しても後遺症により病気であったことが判ると家族や周りに差別が及ぶことを恐れ退所されなかった、名前までも捨ていのち終わってもここに留まれた方々、納骨堂でのおつとめをさせていただき、夕刻は、施設内にある真宗会館で回復者の方々と交流会、お話と夕食懇親の場を持たせていただきました。翌日は邑久光明園での見学と研修を受けました。両園とも入所の方々の高齢化が進み、直にお話を聞くことのできる時間も迫っています。



本山念仏奉仕団 35回参加表彰



10月11日、12日鈴鹿組本山念仏奉仕団に参加、35回表彰を受けられた落合登代子さんにお話を伺いました。

「皆さんのおかげで、毎年参加させていただき、表彰まで頂戴しました。

又、組仏教壮年会でも奉仕団が結成、私も3回ほど加わりましたので35回に到達しました。本当にありがたいことです。私は、前住さんにお育ていただき組仏教婦人会の会長も3回させていただきました。たくさんのお友達もでき、楽しく奉仕団に加わりました。今迄で特に御影堂大修復の際、重たい瓦を拭いたこと、親鸞さまの傘になろうと、ご寄付をして瓦の裏に名前を入れていただいたことが印象深い思い出です。参加した頃は、作業も今より長時間したように思われます。今回家族で参加された団体もあり、1歳から90歳までの奉仕団でした。和歌山からも90歳の男性がおみえでしたが、表彰の際、自分も90ですと申し上げるとビックリされ、後5回は大丈夫と励まされました。行ける限り参加させていただきます。」 くれぐれ

教区長島愛生園・邑久光明園研修会に参加して

訪れる迄は、内心『少し、怖いなぁ』という思いもありました。昔、大人に当時らい病のことを教えられたことが残っていたと思いますし、北條民雄さんの「いのちの初夜」という本を読んだ中で「怖い」と感じたことがありました。今回訪問し、お話を聞く中で、衝撃を受けました。はっきりと「私の考えが間違っていた」と、すっきりとした思いを持つことが出来ました。

田端明さんの著書「波枕・闘病七十年石路の花」を戴き読ませていただきましたが、常に死と向き合いそれでも強く生きてきた田端さんの人生に感激しています。また、仏教の教えを根底に、様々の詩の味わいが心に響いてまいります。お一人でも、この本を読んでいただきたいと思います。

私も、田端明さんのお話は以前聞かせていただいた事がありました。三重県のご出身ということもあり、ハンセン病のことも学んだつもりではいましたが、本当につもりで、浅いものでした。現地を訪れ、回復者の方からお話を伺い、あらためて東野さんから戴いた田端さんの本を読ませていただき深い感銘を受けました。（今回一緒に

参加くださいました井関俊雄さん、照代さんにお話を伺いました）



今年に入りアマチユアスポーツ界に於いて、選手の指導に依るパワハラが矢継ぎ早に発覚し、その報道が毎日の様にTVにて観ない事はありませんでした。何故に指導的立場に就いた人が、選手に對して、叩き、殴り、暴言を吐いて、指導と称するのでしょうか。それを選手に對する愛情の表現と云う人も居るが、私には只の暴力にしか見えない。何故かと云うと、先日に行われた全米OPテニスでセリーナ・ウィリアムズ選手に勝利し優勝した大阪なおみ選手に付いたコーチが話題になり、指導方法が脚光を浴びた事は言うまでも有りません。さて、日本のスポーツ界は何時頃から、指導と称して暴力が行われる様になつたのか、一説には、日本に軍隊が出来た頃から暴力が指導と称して行われて、それがあたかも好として見過ごされて来たのではないかと云います。只の人が権力を握つた、その地位に就いた途端に私利私欲絡みの権限を誇示するのは不思議です、今まで抑えて来た鬱積を晴らす為でしょうか。ところで、私も学生時にスポーツ部に籍を置いたが、或る日のこと、指導先生がミスした事に思わず、くすくす笑つた私の頬を殴りました。私は、その場を黙っていました、この様な事は日常茶飯事でした。誰も文句を言わずに、それが罷り通つた時代だったのでしょね。でも、パワハラはだめです。自分の体験を元に考えた時にその選手が賞を得たとしても、決してパワハラを起る喜びと誇りにはなりません。時代は変わつて来て居ますよ。指導者の立場にある方々は、今一度反省をして頂きたいと思ひます。

平成30年10月15日 北海道大島義勝さん

権力の横暴

不祥事続きが止まらない

●今年に入りスポーツ分野での不祥事
イジメ・セクハラ・パワハラ等々の
ニュースを連日、TVにて観て知り
何故か悲しい思ひにさせられ続けた

●女子レスリング練習場締め出し圧力
大学アメフト危険タックル指示疑惑
ボクシング不正判定、不正使用疑惑
女子体操選手への悪質パワハラ騒動

●アマチアスポーツ界に独善的ルール
指導者が、何故に悪質権力を振るう
地位に就いた途端に態度が豹変する
指導と称して、暴言と暴力を振るう

●愛とパワハラの区別がつかない指導
己の態度が見えない盲目な指導者よ
今一度力に頼らない指導方法を考え
実るほど垂れる頭かなを思ひ出して

報恩講法要作品展示ご協力ご依頼

皆さんが日頃文化祭や趣味で創られた作品など12月8日～10日まで、当山報恩講法要期間展示させていただきます、ご協力をお願い申し上げます。



霜月の
秋晴れうれし
稲刈りの
みつの日定めし
伊勢の風習
丹波栗
松茸黒豆
うまし秋
飲むは甘露の
天の川の水
秋深き
寺の石段
かけ登る
息子の坊さん
衣ひるがへし
東京 小笠原孝枝さん



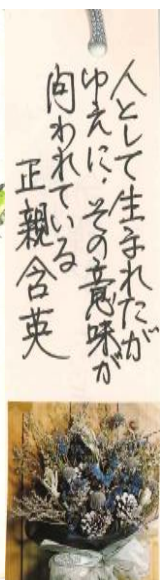
霜月の句

仲秋の嶺（すもり）く郷に入る
帰るる家ありて伴と夜夜かな
くれぬおむすめと受けし柿赤し
大空の紺（くろ）き雲（くも）せる秋桜
俤（おに）にありても独り（ひとり）翳（かげ）雲（くも）
落日の蜻蛉（せいてん）の羽（は）の輝（かがや）きぬ
ひとり居る（ひとりゐる）捨（す）てがな（な）きもの水澄（みづ）めり

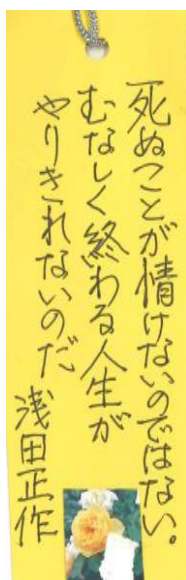
合掌
落合登枝子



朝倉市 森田瑛子さん



札幌市 大島光子さん



朝晩寒さを感じるようになりました。初冬の頃、
報恩講のつとまる時節です。さあ、聖人とともに
心温まるみ教えを聞信してまいりましょう。くれ
ぐれもお身体にはご用心ください。 南無 拝